

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	小林 仁美	学校名	群馬県高崎市立群馬南中学校
担当教科等	英語	対象学年（人数）	① 1年5組（32名） ② 1年1～7組（229名）
実践年月日もしくは期間（時数）	① 2019年11月（2時間） ② 2020年1月～3月（各クラス1時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：特別の教科 道徳		
2. 単元(活動)名：①「幸せってなんだろう」②「私たちにできることはなんだろう」		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：①「幸せってなんだろう」②「私たちにできることはなんだろう」 単元目標： ① パラグアイの人やクラスメイトの「幸せ」に対する考えを聞きながら、「自分にとっての幸せ」を考えることができる。 ② 日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状を知った上で、パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを知り、今の自分にできることを考える。 関連する学習指導要領上の目標： ① 向上心、個性の伸長 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。 ② 国際理解・国際貢献 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	社会科など他教科で学んだことを関連させながら考えられる。
	②思考力、判断力、表現力等	考えをまとめる際に、必要な情報を読み取り、SDGsと関連させながら考えられる。
	③ 学びに向かう力、人間性等	他者の意見を聞き、自分なりの意見を持つことができる。
5. 単元設定の理由 (生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 ① 自らのクラスに様々な事情で不登校になってしまった生徒がいた。クラスの中には、その生徒以外にも人間関係で悩んでいた、家族のことで悩んでいた。現状を悲観したり、自分の現状を周りのせいにしてしたりするのではなく、現状は「自分の気持ち」次第で変化していくこと、自分が変化することで周りも変化することに気づいて欲しかった。そして、「幸せ」というプラスなことに目を向けさせたり、今まで目を向けなかった周りの「幸せの種」をクラスメイトから知ったりして、彼らの生活がより豊かに、そして色鮮やかにするための一助となりたかった。 ② 学校の授業の中で国際理解や国際的な視点で物事を考える機会が少なく非常に感じていた。そして、SDGsという言葉は群馬ではなかなか取り上げられていない、知名度が低いという現状があった。そのため、自身の経験を交えながら、国際的な視点、SDGsの視点で考えさせ、自分事として捉えさせたかった。 【生徒観】 自分自身に自信のない生徒が多い。正解のない答えでも、周りとは異なることを極端に恐れる。したがって、自分自身で考えることはできるが周りに対して発表するという事は苦手な生徒が多い。 【指導観】 ① 1時間目の最後にあらかじめ考えをまとめさせ、2時間目は自分の考えが書いてあるメモを見ながら発表させることで、考えを伝えやすくした。2時間目は、班の人、パラグアイの人など	

	様々な人の「幸せ観」にふれ、「自分にとっての幸せ」を考えさせた。自分にとっての「幸せ」を発表することは、発達段階を踏まえると少し抵抗のある年齢であると思ったため、全体でなく、グループ活動にして、意見の交流を図らせた。 ② 第一に日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状、開発途上国と日本の関係を説明することによって、日本の置かれている状況、世界の置かれている状況に危機感を持たせ、自分事として考えさせた。その上で、パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを読み、自分には何ができるのか考えやすいようにした。また、バズ学習を取り入れて、相手に資料の内容や考えを伝える、あるいは相手の資料の内容や考えを聞く必然性を作り、意図的に交流の場を作った。
--	---

6. 単元計画（全2時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	写真から見るパラグアイの現状	パラグアイの現状を理解させる。	視覚資料から、パラグアイの様子を見て、理解する。	・研修中に撮影した写真や動画。
2 本時	自分にとっての「幸せって何だろう」	様々な人の「幸せ観」にふれ、「自分にとっての幸せ」を考えさせる。	パラグアイの人、班の人など、多くの人の「幸せ」についての考えを聞き、自分にとっての「幸せ」を考え直す。	・研修中に撮影した写真。 ・書籍

7-1. 本時の展開①

本時のねらい：パラグアイの人やクラスメイトの「幸せ」に対する考えを聞きながら、「自分にとっての幸せ」を考えさせる。

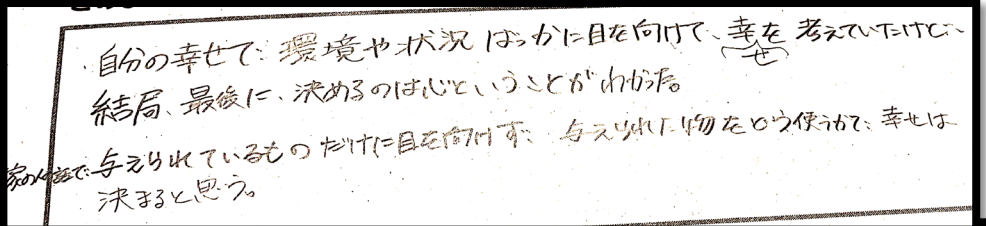
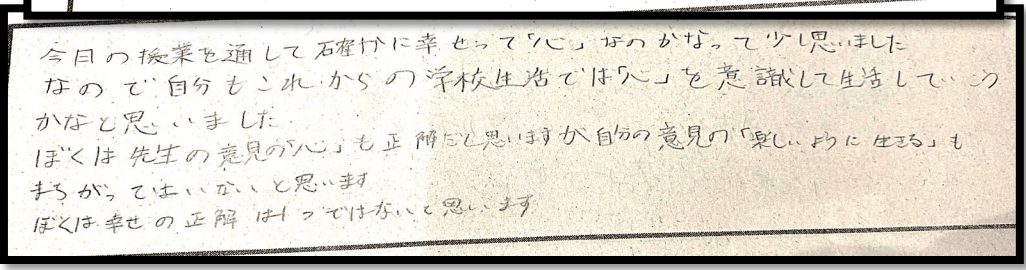
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	<班活動> ○今の自分の幸せを共有する。	・前時にあらかじめ発表することを伝えておき、発表がスムーズにできるようにした。	
展開 (32分)	<個別学習> ○ある人の考える幸せについて空欄に当てはまる語句は何かを考える。 <グループ学習> ○グループで考えを共有する。 <一斉学習> ○全体で確認し、「幸せは自分の心が決める。」というキーワードを確認する。 ○これからの生活を「幸せな心」を持	・文脈から考えられる文章を用意し、空欄の言葉を考えやすくした。 ・自分の考えと周りの考えを聞くことにより、考えをより深められるようにした。 ・パラグアイ農家の例を出し、幸せというものは「心」が決めるということを理解できるようにした。 ・現状を悲観したり、自分の現状を周り	・「ありがとうとお金の法則」著：小林正観 ・現地の農家でのインタビュー

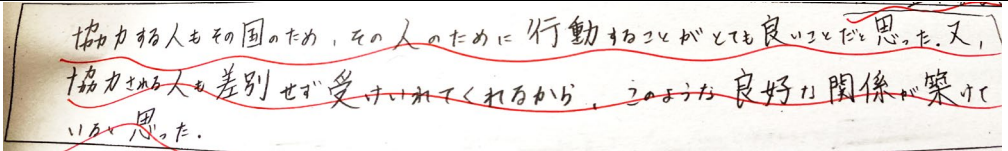
	つ時のヒントを伝える。	のせいにしたりするのではなく、現状は「自分の気持ち」次第で変化していくこと、自分が変化することで周りも変化することを気づかせるような声かけをした。	
まとめ (13分)	<個別学習> ○授業の振り返り 「幸せ」について再考 <グループ学習> ○考えを発表し、「幸せ」についての考えが変化したかを話す。 <一斉学習> ○クラスみんなに発表する・	・振り返る視点を与え、参考になるようにした。 ・考えを共有することで、考えの整理をさせた。 ・クラスみんなの意見を聞き、さらに自分にとっての「幸せ」との相違点を発見させた。	
8-1. 評価規準に基づく本時の評価方法 1. 「幸せ」とは何か自分なりの考えを持つことができた。 2. 友だちの「幸せ観」を聞くことができた。			
7-2. 本時の展開② 本時のねらい：日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状を伝えた上で、パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを読ませ、今の自分にできることを考えさせる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (2分)	<講義> ○本時の学習の流れを説明する。	・学習の見通しを持たせる。	
展開 ①(23分)	○日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状、開発途上国と日本の関係を説明する。	・日本の置かれている状況、世界の置かれている状況に危機感を持たせ、自分事として考えさせる。 ・クイズ等取り入れ、興味を持たせるようにした	・事前研修 ・現地で参加した青年海外協力隊の方々との交流会で行われたクイズ ・現地で撮影した写真
②(20分)	<バズ学習 班活動> ○パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを読む。	・相手に資料の内容や考えを伝える、あるいは相手の資料の内容や考えを聞く必然性を作り、意図的に交流の場を作った。	・現地でのインタビュー ・現地の写真 ・地球ひろばの

	○SDGs との関連を考える。 ○自分には何ができるのか、読んだ感想を書く。 ○1人1分ずつくらいで、班員に発表する。 ○大切だと思うことのメモをとる。	・ワークシートにメモをする欄を設けたが、第一の目的はメモを取るのではなく、相手の考えを聞くことであると伝え、忘れたくない重要なキーワードのみメモを取るよう指示をし、目的の確認をした。 ・SDGs 資料を用意し、関連させることが難しい生徒の参考になるようにした。	SDGs に関する資料
まとめ (5分)	○振り返りをする。	・自分の取り組みを自分の言葉でだけでなく、項目を用意して振り返りやすくした。 ・項目と自由記述の部分を作り、振り返りしやすいようにした。	
8-2. 評価規準に基づく本時の評価方法 - SDGs について理解することができた。 - 自分の考えを伝えることができた。 - 友だちの考えを聞くことができた。 - 以前よりも国際理解について興味を持つことができた。			
9. 学習方法及び外部との連携 ①では、グループワークを取り入れた②でもグループワークだが、バズ学習も取り入れた。これにより、他者の意見を取り入れながら、自分の意見を考えさせられた。			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 ・今回の研修に参加するにあたり、学年集会を開き、学年の先生や生徒に向けて、研修の内容を伝えた。そして、「地球の裏側パラグアイの人と繋がりませんか？」と生徒に投げかけ、生徒にしおりを作成してもらい、実際に訪問した先々の学校の生徒に配布した。 ・社会科、技術科、家庭科の教員に今回の研修で得た資料や知識を提供している。 ・JRC 委員担当として、書き損じはがきの回収（アジアの学校づくりの一環）、履き古した靴の回収（靴を履けず、病気になるアフリカの子どもたちに向けて）活動を実施した。 ・来年度は、授業実践を引き続きするとともに、授業公開をし、多くの先生に参観していただく機会を作りたい。			

【自己評価】

11. 苦労した点	① ・テーマが難しく、発表しやすい学級経営ができていなかったため、発表することに抵抗を感じている生徒がいた。 ・SDGs や研修での内容を有効に活用できなかった。 ・パラグアイは「かわいそうな国」として捉えさせてしまった。 ・自分事として捉えさせることが難しかった。 ② ・国際理解、国際貢献の必要性の伝え方が難しかった。
-----------	--

	・授業を出ていない授業のクラスの実態を把握しきれず、適切な支援と声かけが難しかった。
12. 改善点	① ・パラグアイの実態をもっと把握してもらう。 ・発表しやすい雰囲気づくり、学級づくりをする。 ② ・実態がわからなかったクラスは、授業参観をしたり、担任の先生ともっと連携をとったり、実態把握に努めるべきだった。
13. 成果が出た点	① ・悩み事に対して自分自身で解決しようとする意志が見られ、今ではその悩みとうまく付き合いながら日々生活している様子がある。 ・「幸せ」は人によって異なり、それで良いということと、違うということを否定するのではなく、それを認める発言が見られたこと。 ② ・「世界で役に立ちたい」「救いたい」「募金・寄付など自分のできることをしたい」「部分的に学んできた社会の問題が繋がった」「授業で学んだことのない内容だった」「興味が持てた」という感想が多くあり、自分事として捉えられる人が多かった。 ・「世界で困っている人を救うために、SDGs や国際協力があるんだ」という感想の記入をし、意義を理解している人がいた。
14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	*紙面の都合上3名の生徒のワークシートはのみ掲載することをご承いただきたい。 ①   ・今まで幸せは自分の状況や心だと思っていたけど、自分の心で決められることが改めてわかった。これからは、辛いこと、苦しいこと、悲しいことがあっても、それをポジティブな思考に変えたり、面白い話などに変えたりして、幸せに考えられるように過ごしていきたい。また、自分の「心」で人生を幸せなものにできるようになりたい。 ・幸せは自分で作るものと思った。 ・グループの中でも人それぞれで、幸せの感じ方が違うということもわかった。 ・幸せとは何なのかわからなかったけど、これからは幸せを探してみようと思う。 ・自分の心が決めるといっても、いくら幸せになろうと思っても、どうしても思えない時、幸せになれない時ってあると思う。幸せってなろうと思ってるものではなくて、普段の生活についてくる。自然となるものなのではないかと思った。 ・幸せと思うことが他にもあった。 ・幸せは人からもらうのではなく、人からもらったものを幸せに感じるのだと思った。自分から幸せを感じられるようになりたいし、与えられる人になりたいと思った。

	②  ・今日の道徳で、SDGsについて行った。今、川の水を飲んでいない人や家がない人、食べ物が無い国がたくさんあると聞きました。日本は当たり前のように「幸せ」があるけど、それが無い国もあるので、その人たちにできることがあるなら進んでしたいです。 ・世界には色々な人がいる。色々な問題がある。そして、それに対する様々な活動があるということを感じた。同じ地球にいても、自分と違う立場で生活をしている人がいて、「こんなことになっているんだ」と発見があった。将来なんらかの形で、世界にとって役に立つ人になりたいなと考えることができた。 ・SDGsについて日本は今までほとんどできていると思っていたけれど、色々な問題があるということがわかった。さらに、世界を維持、進歩させるには、世界国々の協力が必要だと思った。自分も少しでもSDGsに協力できるようにしたい。 ・国際協力をしないと世界は成り立たないと思った。自分はあまり興味を持たなかった分野だけど、興味が持ててよかったです。 ・僕も将来、他の人に感謝されるようになりたい。 ・世界には、様々な考え方をを持った人がいて、それを理解することが大切だと感じた。
15. 授業者による自由記述	今回の参加で、力のある、そして尊敬できる他県の多くの教員に出会えたことが大きな収穫だった。1回目の実践のリベンジをすべく、各クラスでのローテーション道徳の内容は、パラグアイチームの玉腰さんが、学習会で得た授業方法をアレンジしてくださったものを、自分なりに少し手を加えて私の生徒に実践したものである。研修期間も、研修後も助けてくださる心優しい先輩方に囲まれて、「私もいつか先輩方に自分の実践で還元したい!」と思うようになった。今回出会ったパラグアイチームの全ての人とのつながりをこれからも大切にしたい。そして、県を超えてコラボ授業を実施してみたり、今後の教材研究をともに行ったり、実践を共有しあったりする中で、自身の教員としての資質を高めていきたい。そのために、今後の教員生活では「国際理解」「国際貢献」「SDGs」を基本軸に授業実践に取り組みたい。 今回は、この研修を自身の教科と関連づけをしたかったが、単元と内容の関連を発見することができず、「特別の教科 道徳」で実施した。来年度は、「英語」と今回の研修を関連づけて行いたい。 最後に、教員として2年目であり、パラグアイチームの中で最年少であった私は、研修中は「甘え」があった。研修中に会った青年海外協力隊の山口萌さんは、年齢を言い訳にせず、たくさんの方に挑戦し、自分の未来を切り拓く姿を見せてくださった。同い年である山口さんは、その「甘え」に気づかせてくれ、帰国後の自分の考えを変えるきっかけを与えてくれた。研修中は、海外で活躍する多くの日本人に出会い、自分の意志を強く持ち、「誰かのために頑張る姿」からたくさんの勇気もらった。今後、一人の教員としても、一人の人間としても「私にできることは何だろうか。」と考え続け、生活していきたい。

「僕にできることはまだあるかい？」

「愛にできることはまだあるよ」

カテウラ音楽団 マルセロ・カセス先生



首都アスンシオンのすぐそばにあるカテウラ地区は、廃棄物が高く積まれた中に、多くの貧困層の方々が不法占拠という形で暮らしている。カテウラ音楽団はその地区の小学生～20歳くらいの子供たちが放課後に通う学校。手作りの廃材の楽器を使って練習をしている。カセス先生は音楽団のアシスタントとして指揮や指導を務めている。

▶ やりがい

子供が日に日に一步一步前進していることを確認できたとき。我々は楽器を渡して生徒に教えているが、楽器というのは一つのツールだと考えている。変化・変容を促すツールなので、生徒に技術は教えるが、それ以上に力を入れているのが価値観やしつけなどを伝えることです。

▶ 大変なこと

毎日何等かの形で表れているが、日々それらを乗り越えていくように努力できるようにしている。課題の一つとして、子どもたちの家庭環境が悪い場合があること。そういう場合は特に細心の注意を払って、その子の力になれるようにしている。

▶ 夢

カテウラ音楽団がパラグアイーになることです。その先には世界一の音楽団になることを目指しています。

▶ 日本の子供たちへ

みなさん、夢があったらそれを叶えるために、すべての条件を備えなければならない、というわけではない。少しずつ、一歩ずつまずは踏み出して、そこから夢を叶えていってほしいと思う。

これからみんなが成長するにしたがって、いろんな壁に直面すると思うけど、乗り越えられない壁というのはない。みんなが抱える悩みより数十倍の悩みを抱えている人たちもいるので、がんばってください。夢を叶えるためには、情熱・努力・忍耐があれば、必ず叶えられます。

関連するものに○をつけてください。（複数に○を。）



カテウラ音楽団

マルセロ・カセス先生

1

「僕にできることはまだあるかい？」

「愛にできることはまだあるよ」

パラグアイ農家 ミグドニオ サムリオさん



ミグドニオさんの妻は、女性が現金収入を得られる仕事を得るために近隣の主婦たちと農村女性グループを結成し、手作業で作ったものを売っている。ミグドニオさんは農業や畜産業を営む傍ら、そんな妻を応援している。娘は赤土の道を数十分進んだ地域にある学校に通う中学生。非常に優秀で、将来を期待されており、青年海外協力隊の山口萌さん（資料4）が支援している。

▶妻の仕事に理解はあるのか。

活動を始めたいと言い始めた最初から彼女を応援している。来てくれてありがとう。外から来て色んなことを教えてくれたおかげで色んなことが少しずつ良くなった。ありがとうございます。みんなと一緒に手を取り合って活動することで、研修などで色んなことを教えて貰い、自分たちの生活が良くなるきっかけになっているので嬉しい。もっと外国人を受け入れる体制ができれば、もっとパラグアイは良くなる。場所はたくさんあるから。学校に行けなかった分、皆さんが来て教えてくれるから知識が少しずつ着いてきているから。そこから少しずつ学ぼうと思っているから。

▶娘への教育観

自分も60歳で学校に行けなかったから、外の人が言ってくれたことを聞いて、少しずつ知識を貯めて、子供たちには学んで欲しい。ああ、幸せを感じる。パラグアイに来てくれただけでなく、僕の家に来てくれてありがとう。萌ちゃん（青年海外協力隊）達は自分の子供だよ。遠く家族と離れて他の国のために働くなんてどんなに大変か。だから僕の子供だよ。自分の娘も外で働いている。だから彼女達の気持ちがわかる。子供5人いる。女の子三人。子供たちに勉強させてあげたい気持ちはいっぱいあるけど、経済力がないから、勉強したければ子供たちの稼ぎで学んでくれないといけない。悲しいけれどもしょうがない。もう一言いいですか！！ 僕の目にはみなさんがどう映っているかということ、どこからか私たちを助けてくれる存在で、宇宙人のように降りてきて、なにか光を感じた。私の中にはもう1人偉大な人間（神）がいる。神様が私の人生をいい方向に導いてくれる。皆さんも団結して、私達も団結して、そのグループが団結すれば力が増すでしょ。絶対光はさすから。前進しましょう。

関連するものに○をつけてください。（複数に○を。）



パラグアイ農家
ミグドニオ サムリオさん

2

「僕にできることはまだあるかい？」

「愛にできることはまだあるよ」

パロサント・ミドリ 立川巧雪さん・いずみさん



立川さんご夫妻は、南米の聖なる香木「パロサント」を箸やマグカップなどに加工し、販売する会社を経営している。「パロサント」は幸せを呼ぶと言われ、現在もシャーマンが治療や儀式に利用する伝統的な木だが、その原産地では廃材になっていた。森林伐採が多いパラグアイで「緑を大切にしましょう」というメッセージを込め、パロサント・ミドリという会社を始めた。

▶きっかけ

(巧) 現地の日系移住地（日本人が移住した土地）の知り合いが、現地に何かお土産になるようなプレゼントになるようなものを作ってくれないかと言い、現地の木で作ったお箸を贈ったことがきっかけ。それがきっかけで徐々に幅を広げ、今100種類以上のものを手掛けているということです。

▶大変なこと

(巧) 実は、ありません。ブランドとしてどんどん伸びている中で、昔の自分だったら大変だったと思うことはあるが、全部失敗は成功のもと、大変なことを繰り返しているうちに成功につながっている。趣味が仕事。趣味と仕事がつながっている。休みの日でも仕事したくなる。苦に感じてない。麻痺しているかもしれないが、楽しいので。

▶日本の子供たちに一言

(巧) 僕は、妻と同郷で育ったが、小中高と遊んでばかりで、家にいればゲームばかりで、今時の子と変わらないと思うが、一番好きなゲームがシュミレーションゲームだった。今お仕事をする上で、人材配置やスケジュール管理だとか今やっていてすごく楽しいが、昔やっていたゲームにすごく感覚が似ている。子供たちに言うとしたら、今やっていることが無駄になることはないと思うので、ゲームやってもいいと思うし、勉強やらなくてもいいと思うし、好きなことをずっと続けてもらいたいと思います。

(い) じゃあ逆に、一つのことをずっと続けなくても、いろんなことをやってみてほしいと思う。好きなことが見つからないという人も結構多いと思うが、もう「あそこのお店のあの料理食べてみたい」とか、そんなもので良くて、何でも心が動いたことに体も動かしてほしい。なんでも無駄なことはないから。

▶やっておけばよかったこと

(巧) ちょうど反抗期で遊んでばかりで、家にいる時間がなかった。親孝行、家族と接する時間がもっとあればよかったとは感じます。

関連するものに○をつけてください。（複数に○を。）



パロサントミドリ

立川巧雪さん・いずみさ
ん

3

「僕にできることはまだあるかい？」

「愛にできることはまだあるよ」

青年海外協力隊員 山口萌さん



中央左の女性。大学在学中に青年海外協力隊に応募し、卒業後すぐパラグアイに来た。地方農村部であるイトウルベ市役所で、子供にダンスや英語を教えたり、虐待を受けている子供を支援したりする活動をしている。

勉強するお金もなく、職業も知らない子供たちに、奨学金を取る方法を情報提供したり、将来の夢を考えて、夢のために今具体的にできることは何か考える場として光 mimbi というグループを作った。サムリオ家（資料2）もよく訪問している。

▶きっかけ

ボランティアになろうと思ったきっかけは、大学2年の時のハワイ大学への1年間の留学。同じ寮に住んでいたのでみんな仲良くなった。周りの友人は奨学金をもらって国のために働きたいなどと、自分と同じ年なのにすごかった。9歳の時から留学が夢だった。留学後は毎朝「私はハワイにいるんだ！」と実感していた。友達が困っていたら手を貸すというカジュアルな感覚で、国際協力の道に行こうと決めました。

▶やりがい

自分の企画したイベントに可能性を感じる。もしかしたらこの子に響くかもしれない。子供たちがキラキラ、集中しているとき。

▶大変なこと

子供に向けて自分が何かしているときは教えるという立場だが、市役所では大学卒業してすぐ来ているので、カウンターパートに何かを教えるというスタンスは取りたくない。でも自分が見本となる立場にならないといけないので、違和感なく見せるにはどうすればいいか難しい。言葉の壁もある。スペイン語は直接的な表現ばかりなので、相手に不快な思いをさせないために、表情や雰囲気や伝えている。

▶夢

オーガニックコットンのビジネスに興味がある。コットンは生活に欠かせない、環境にもいいし、衣類を作る途上国の女性の支援になる。創ることが好きなので、好きと社会貢献をミックスして何かできれば。エシカルファッションにも自分ができることで貢献していければと思います。

▶やっておけばよかった

両親のことや先生の意見があまり理解できず、社会に対する問題や不満が結構あった。男女の差、みんながこうするからこうしなければならないなどに、どうしても賛同できなかった。私は歯向かったタイプ。分からなければ分からないと言っていたが、もう少し早く大人の意見にもオープンに耳を傾けていたら、早い段階で気づけたこともあると思う。経験のある大人の意見も参考にしながらがんばって。

関連するものに○をつけてください。（複数に○を。）



青年海外協力隊

山口萌さん

4

「僕にできることはまだあるかい？」

「愛にできることはまだあるよ」

青年海外協力隊 橋口奈々穂さん



右の女性。京都で4年間学校栄養教諭の仕事をして、パラグアイに来了。学校給食の地産地消や、パラグアイの農業をよくするための活動をしている。現在の勤務地であるサン・フアン・ネポムセノ市では1年間で2か月程度しか給食が提供されていない。栄養士としての活動の傍ら、パラグアイの人々とともに平和を考えるために原発展を主催するなど、幅広く活動されている。

▶きっかけ

JICAボランティア応募のきっかけは、大学時代にカンボジアの時代検証ツアーに参加したこと。それまでは募金活動をしていたが、実際にカンボジアで被害者の方とお話したときに、生きるすべを分け合うボランティアをしたいと思ったので、この仕事を始めた。

▶やりがい

学校給食にどんな問題があるのか、なぜあるのかを調べている。仲間と共有したときに、今まで知らなかったことをシェアして新しい視点を共有できたときにやりがいを感じる。

▶子供たちにひとこと

皆さんには夢やチャレンジしたいことはありますか。もしあるのであれば、できるかではなく、どうしたらできるかを考えてほしい。私は22歳で青年海外協力隊になりたいと思い、それから4年間日本で仕事をがんばって、27歳の時に夢を叶えた。夢を叶えるまでにたくさん失敗をしたし、嬉しいこともつらいこともあったので、途中で目標が変わってもいいと思います。自分でやりたいことにチャレンジしてみてください。

▶やっておけばよかったこと

水泳部に所属していて、キャプテンだった。選手としては成績良くなかったが、部活動に夢中の高校生活。やっておけばよかったことはあまりない。大人になっていろんな人に出会ってから、一人ひとり持っている専門性が違うだけなので、夢中になれるものがあれば、それでいいのではないかと思います。

関連するものに○をつけてください。(複数に○を。)



青年海外協力隊

橋口奈々穂さん

5

「僕にできることはまだあるかい？」

「愛にできることはまだあるよ」

JICAパラグアイ事務所 村上幸枝さん



JICAとは、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行う機関。その国の経済や社会の発展に力を貸し、国際協力の促進に資することを目的としている。

村上さんは小学校3年生と年長さんの娘さんたち家族を日本に残し、単身赴任をしながらパラグアイ事務所で働いている。

▶きっかけ

もともと中学高校時代に英語が好きだった。語学を生かした仕事に就きたい、英語は勉強している人も多いので、他の言語を勉強したいと思ってスペイン語を専攻し、ずっとスペイン語を使い続ける仕事をしたいと思ってこの仕事を選んだ。JICAにはずっと興味を持っていたが、就活時期に先輩から話を聞く機会があり、途上国のためにがんばっている専門家がたくさんいることに興味をもち、世界でスペイン語を使って働きたいと思ってJICAに入りました。

▶夢

大きなところでいうと、JICA事務所がなくなるくらいパラの人たちが自分たちでよい暮らしに向かって、他の国の力も借りないで前に進んでいけるような時がいつか来たら売れしいと思う。

▶子供たちにひとこと

いろんなやりたいことがたくさんあるといいなと思う。心の中にやりたいことを持っている、だれでもすごく仕事に生かせる。好きなこと・やりたいことじゃないとなかなか続くことができないと思うので、1つ2つでもいいから、自分のやりたいことを探して、どうやったら自分のやりたいことが実現できるのか考えて、好きなこと・やりたいことに進んでいけるといいなと思う。他の国・開発途上国で問題になっていること、どうして人々は貧しかったり病院に行けなかったりするの。授業・インターネット・本など調べ、他の国に興味を持ってもらえたらうれしいと思います。

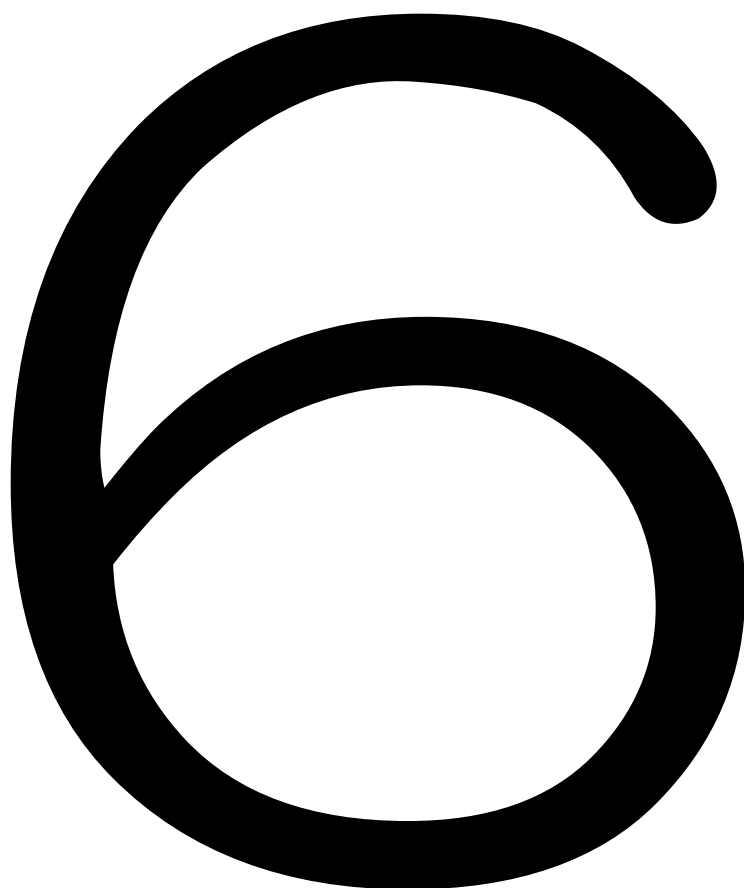
▶やっておけばよかったこと

すごく英語が好きだったので一生懸命英語を勉強していたが、留学はしていなかった。周りの友達で留学をして視野を広げていた人もいたので。必ずしも留学しなければならないわけではないが、少しでも他の国のことに興味があったら、高校時代に留学しておくといいと思います。それが心残りです。

関連するものに○をつけてください。（複数に○を。）



JICAパラグアイ
事務所所員
村上幸枝さん



「僕にできることはまだあるかい？」

「愛にできることはまだあるよ」

青年海外協力隊 古賀健太郎さん



大学在学中からフィリピンのストリートチルドレンの支援をしているNGOに足を運んでいた。大学四回生から教員免許を取りはじめ、その中でJICAのボランティアになりたいと思い始めた。1年間日本の中学校で常勤講師をしながら青年海外協力隊の受験をし、現在では貧困地域にあるPCスクールで教員をしている。

▶ やりがい

毎日感じている。子供たちとやり取りをするのも楽しいし。ここの子供たちは、カアグアスの中でもとくに貧困層なので、学校に来るのも難しい子もいる。小学校1年生は20名くらいいるが、中学3年生になったら6〜7名など、だんだん減ってしまう。その中でも頑張ってきている子もいますし、そういう子が本来なら手が届くはずなのに、届かない夢がある。それはお金がない、情報が手に入らないなどの問題があって。そういう時に僕が手を差し伸べてあげる役割ができたときによかったと感じる。アスンシオン（首都）の子は愛情不足の子がいるが、ここは常に誰かがいて、貧しくても愛情豊かな子が多い。

▶ 大変なこと

大変なことは、風呂に長く入ってない子や服が汚れていたりして臭いが強いこと。子どもたちは、勉強しに来るというより、友達と遊びに来ている感覚。親の介護や制服がない、障害者の介護などで学校来られない子もいる。

▶ 夢

もともとは教員に戻ることも考えていたが、最近は世界は広いなと感じている。もっといろんな世界を見たい。近くのアルゼンチンなど、世界の広さを見て学んで、また教育に戻りたい。

▶ 教育の根本的な問題

先生自体がどういう授業をしていいかわからない。物質は買えない。カアグアスの中でもとくに貧困層なので。制服買えなくて学校来られない子もいる。援助があっても足りない。基本トップダウンで下から意見を言えない。先生の中に教育の概念がない。

関連するものに○をつけてください。（複数に○を。）



青年海外協力隊
古賀健太郎さん

7

「僕にできることはまだあるかい？」

「愛にできることはまだあるよ」

コロネル・オビエド浄水場 オルガさん



かつてこの地域では、水の質が低いため
に子供に健康被害が出たり、供給量不足
で1日8時間は断水したり、雨季には増
水してしまったりしていた。

その後、日本の無償資金協力によってコ
ロネル・オビエド浄水場が作られた。オ
ルガさんは当時のコーディネーターを
務めていた。

来てくださってありがとうございます。日本国民のみんなみんなみんなに、心からありがとうございます。この私の今のハグは、皆さんの協力のおかげでこの地域の十万人の方が質の高い水を飲めるようになったんです。

▶ やりがい

SDGsにあるように、安全な水を供給することは国にとって貢献できることであり、やりがいをそこに感じている。パラグアイは一人当たりの水の供給量は多いが、質はまだ不足している。このような施設ができたことは、パラグアイ国民にとって大変重要なことでした。

▶ 大変なこと

一番は水資源を保全すること。工場排水がそのまま川に流されるということは、その水を供給することになり、コストもかかる。自然を守ることは消費コストの削減にもつながるが、そこを理解してもらうのが難しい。また、質のいい水を万人に提供するのには課題がある。

▶ 日本の子供たちに一言

今はいろんな情報をインターネットを介して見るができる。そこで知ったのは、日本の子供は幼い時からきちっと節約ができるということ。こまめに水を使うとか。自分が水を節約できるということは、別の人がある分使えるということ。そういう教育ができていたことは素晴らしいことです。

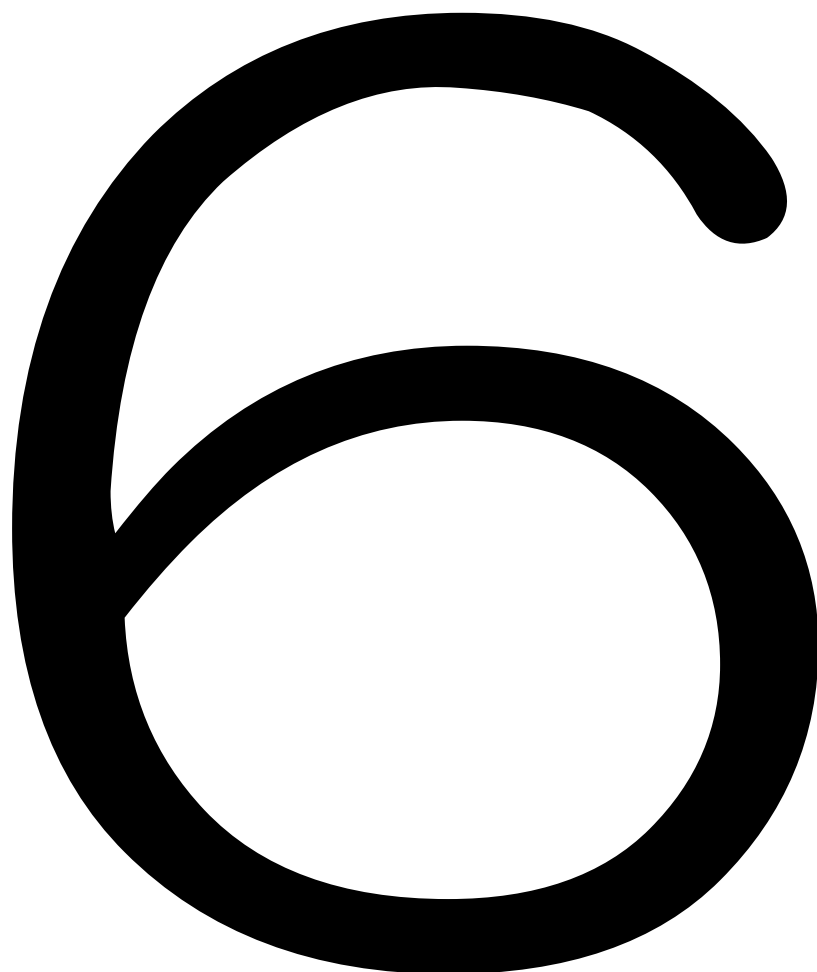
▶ 日本の教師に一言

日本がいろんなところで援助をしていることは、国の格差をなくそうとしているのだと思う。平和のためには格差をなくすのが大切。格差があるから人は争う。それをきちっと子供たちに伝えるのが大切だと思います。

関連するものに○をつけてください。（複数に○を。）



コロネル・オビエド浄水場
オルガさん



「僕にできることはまだあるかい？」

「愛にできることはまだあるよ」

今日は、国際協力に関わる方々やパラグアイに住む方々の思いを知り、「僕にできること」をもっと深く考えてみよう。

ワーク1

- ① 自分の資料の人のお仕事の内容や、やりがい・夢・子供たちへのメッセージなどを読もう。
- ② その人の考えや活動がSDGsのどの項目に関連すると思うか、項目の番号を複数記入しよう。
- ③ その人の考えや活動を知って、自分が感じたことをメモしよう。

ワーク2

- ① 給食班に戻ってから1番の人から順番に発表する。
- ② 説明が終わったら、「アウイジェ（ありがとう）！」と互いにお礼を言おう。



国際理解・協力は簡単なことではありません。



それでも、足元から一歩ずつ行動している人たちの考えや活動を知り、「僕にできること」を考える日にしましょう♪

班員の名前	パラグアイ関係者	SDGs 関連する項目番号	考えや感じたこと
自分	さん		

班員の名前	パラグアイ関係者	SDGs 関連する項目番号	考えや感じたこと
	さん		
	さん		
	さん		
	さん		
	さん		

今日の授業の振り返り

- | | |
|------------------------------|-----------|
| 1. SDGs について理解できた。 | (A B C D) |
| 2. 自分の考えを伝えることができた。 | (A B C D) |
| 3. 友だちの考えを聞くことができた。 | (A B C D) |
| 4. 以前よりも国際理解について興味を持つことができた。 | (A B C D) |

感じたこと・考えたこと

あなたにとっての幸せ ～考えを深めよう～

1－5 () 名前

1. 今の自分の幸せを共有してみよう！

ヒント

共感できるときは、 「わかるよ！」「私もそう思うよ！」

自分にはない幸せのときは、 「そう思うんだね。」

聞くときの

2. ある人が考える幸せについて 穴埋めしてみよう。

人に幸せを与えてくれると思われているものは、大きく3つに分けられます。1つ目は、

「ア 」です。金銭的な物を含めた、物質的な「ア 」。2つ目は、「イ 」

「ウ 」です。例えば、自分が課長になったとか、教授になったとか、地位が上がったなどの「イ 」がその1つです。それから、美しい海や山を目の前にしている。その風景が

自分にとって心地よいという意味での「ウ 」があります。そして、3つ目は、

「エ 」です。これは、「...、と思う エ 」です。

3. 幸せというものは自分の「 」が決める。



4. 今日の授業を通して考えたこと

ヒント

幸せについて前回の授業と考えが変わったか？ これからの学校生活について考えること
どのように毎日過ごしていこうか。

5. あなたにとって幸せとは…



幸せは自分の心が決めること。

妬み僻み負の気持ちは一切持たない。

みんないろいろある。

いいところしか見せない。悩んだり、もがきながら頑張っている。

幸せの作り方

理不尽なこととか怒りをぶつけられることに対して

面白さやネタに変えてしまう。

こんなことされた！被害者意識を持つと加害者が生まれる。

加害者が生まれると憎しみが生まれる。憎しみはひどい執着に変わる。

嫌いな人ができると意識するからしんどい。

人の幸せはその人の頭の中で作ることだから SNS などでも周りとは比べる社会になっても、自分が幸せと思ったらそれが幸せ。

リノさん 72 歳夫 ニックネームテソーロ（宝）

子ども 3 人 男女女

ホセファ 70 歳妻

健康に。2 人でマテ茶飲んでいるとき。